

庄内町の秋まつりが開催されます

あまるめ秋まつりが10月9日(日)庄内町総合体育館周辺にて、たちかわ秋まつりが10月16日(日)庄内町体育センターにて開催されます。



今年は、食をメインにしたこだわりの店を一同に集め、美味しい食、安心安全な食、さらには知られざる食を通して庄内町の魅力を再発見します。毎年大好評のつきたて餅やイワナ焼き、川ガニ汁や豚の丸焼きの直売をはじめ、「おいしい！」

「楽しい！」お楽しみイベントが盛りだくさんの内容となっています。農商工が一体となり、ふれあいを楽しめるお祭りです。ぜひ、収穫の秋に旬の味覚を楽しみにお越しください。



なお、10月30日(日)に南三陸町で開催される福興市には、庄内町も出店する予定です。ぜひ、そちらにもお立ち寄りください。

問い合わせ 庄内町観光協会 ☎0234-42-2922

復興に向かって ②

震災復興計画では「なりわいの場所は様々であっても、住まいは高台に」を基本とし、旧志津川市街地は「なりわいの場所に、周辺の高台(ベイサイドアリーナ、志津川高校、志津川小学校の各付近)は、住宅地として造成する案としています。ここでの新たなまちづくりには、先月号で紹介した「防災集団移転促進事業」とともに、「土地画整理事業」を予定しています。今月はこの事業について説明します。

土地画整理事業とは

市街地(都市計画区域)において、道路・公園など、公共施設の整備改善と、そこに住まい・なりわいを行う皆さんの土地の利用増進を一体的に行う事業です。

※町内における都市計画区域は志津川地区の約900ヘクタールだけです。

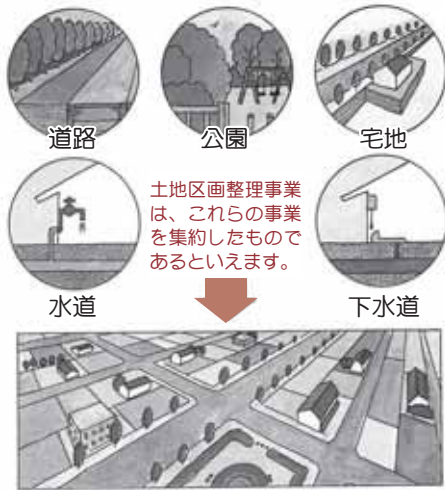
事業のしくみ

道路や公園などを新たに作る時は、その用地を町が買収してつくる方法がありますが、この方法では、せつかく作った道路に接する土地が

使い勝手の悪い形で残るなど、土地利用の効率が上がりません。

土地画整理では、地区内すべての土地所有者が少しずつ土地を出し合うこと(減歩)によって、道路や公園などの用地が生み出され、それぞれの所有地もすべて新しい道路に沿って、形の整った土地に生まれ変わることになります。

なお、志津川地区で予定される事業では、今後の防災まちづくりのため、今ま



で以上に広い面積の公共用地が必要であり、土地を出し合う減歩に加え、申し出があった方の土地を買い取ることも組み合わせ、一体的に街を整備していきます。



整備内容は

今回、志津川地区で予定されている事業についてですが、公共施設では防潮堤の整備強化、国道45号・398号・避難路の整備、公園の新設、八

幡川・新井田川等の河川護岸の強化などを行います。また、住宅地については、安全安心な街を形成するため、高台に移転する計画となっています。

夢大使 リレー通信 ⑤⑧



各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、在仙志津川会会長の田畑英伍さんです。

夢大使 田畑 英伍さん (宮城県仙台市)

故郷の復旧復興への貢献

今思い起こすと、3月9日付けで夢大使としての故郷への思い「いつまでも志津川は我が自慢の故郷」という私の気持ちを込めたメッセージをこのページに掲載してもらったため、ファックスを送付するところでした。しかし、3月11日、県土を襲った千年に一度といわれる大地震と津波は、想像を絶する大きな被害をもたらした。なかでも、我が自慢としていた故郷南三陸町も壊滅的な打撃を受けました。まずは、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。そういう私個人も、震災直後から1週間ほど志津川在住の身内との連絡がとれず、眠れない不安な日々を過ごしま

したが、数日後、家内の親族3人が亡くなった旨の知らせを受けました。その報を受けた家内の落胆ぶりに掛ける声も無く、悲痛な日々を過ごしておりましたが、気持ちを奮い立たせ、翌々日、南三陸町を訪問しました。かつての昔懐かしい町の姿はなく、見るも忍びないほどの瓦礫の山と化していました。生まれ育った懐かしい市街地で足を止めて辺りを見回しても自分のいる場所が認識できず、車に戻ってカーナビで確認をすることで納得せざるを得ませんでした。

「将来への明るい希望をもって、愛する故郷の復興に知恵と力を結集」して頑張ろうではありませんか。

つかっておりましたので、この目の当たりにした現状を早く仲間から知らせなければいけないから、日本のライオンズと国際協会を通して世界のライオンズに情報発信いたしました。お陰さまで素早く対応していただき、世界の国々や国内のライオンズクラブから支援の物資や義援金が多く寄せられたのであります。この世界的規模での被災支援に、責任をもって応えていかなければならないの思いから、私は宮城県のライオンズクラブの災害復興対策本部長を引き受けました。また、夢大使の任を全うすることを念頭に於いて、思い出の詰まった故郷の一日も早い復興にお役に立つことを願い、これからの活動をしていくことが生まれ育った故郷への恩返しであると強く思っています。



問い合わせ
震災復興推進課 ☎46-1371
建設課建設総務係 ☎46-1377